



2022年11月21日
苫小牧埠頭株式会社

「TOMAF2025 2022～2025 年度中期経営計画」策定に関するお知らせ

苫小牧埠頭株式会社（本社：北海道苫小牧市、代表取締役社長 海津 尚夫、以下「当社」。）は、2022 年度から 2025 年度までを計画期間とする「TOMAF2025 2022～2025 年度中期経営計画」（以下、「中期経営計画」。）を策定いたしましたので、お知らせいたします。

今次中期経営計画は、我が国・北海道の人口減少・高齢化の進展、気候温暖化に伴う農林水産品生産・漁獲適地の変化およびカーボンニュートラルに向けた取り組みの伸展など、当社をとりまく環境は今後大きく変化することが見込まれており、こうした環境変化への課題認識と当社の強み・経営資源を踏まえ、経営理念および計画体系の整理とあわせて策定したものです。

（経営理念と 2040 ビジョン）

当社は、1960 年の設立以来、日本有数の港湾である苫小牧港を中心に北海道の産業・生活に不可欠な重要物資を取り扱って参りました。今後、外部環境の大きな変化が見込まれる中、これまで培ってきたノウハウを活かしつつ、新領域への事業展開を目指すこととし、経営理念を「物流イネーブラー[※]として地域・社会に貢献します。」と定めるとともに、2040 年のありたい姿として「2040 ビジョン」を取りまとめました。

※イネーブラー：地域・顧客の発展や課題解決を可能とする上で不可欠な存在。縁の下の力持ち。

（中期経営計画）

今次中期経営計画では、計画期間を「2040 ビジョン」の実現に向けたファーストステップと位置づけ、事業戦略として「①収益力を上げる、②部門をつなぐ、③領域を広げる」取り組みを、経営基盤戦略として「④人財投資・組織体制の強化、⑤ガバナンスシステムの高度化」を進めるとともに、本業や組織運営・対外コミットを通じて社会課題解決（⑥環境問題・⑦地域発展）に取り組んでいくこととしています。

（行動指針）

また、当社役職員が「誠実」と「挑戦」、そして「地域・社会貢献」という価値観を共有し、経営理念を追求する上で必要な具体的な行動を実践するためのガイドラインである行動指針をとりまとめております。

内容の詳細については、別紙をご覧ください。

別紙資料：「TOMAF2025 2022～2025 年度中期経営計画」

以上